第２章　苫小牧港の現状認識

2. 苫小牧港の現状認識

2.1 港湾施設の概要・埠頭別利用状況

苫小牧港は、北海道南西部太平洋岸に位置し、西港区と東港区からなる、海岸線延長約24km、港湾区域約 14,300ha の広大な水域を有する港湾である。

西港区は、昭和 38(1963)年４月、東港区は昭和 55(1980)年 10 月にそれぞれ供用が開始された。それ以来、北海道の流通拠点として重要な役割を果たし、昭和 56 年５月に特定重要港湾に指定された。

今日の苫小牧港は、札幌圏を中心に北海道全域に及ぶ背後圏を抱え、北米や東アジアなどを結ぶ外貿定期コンテナ船や外国貨物船が寄港する国際貿易港であるとともに、東京港や大阪港をはじめとする国内主要港とを結ぶ、国内最多の内航定期航路を有する国内拠点港として、北海道はもとより我が国の経済及び国民の生活に大きく寄与している。

港湾施設の概要を表 2-1、苫小牧港港湾計画図(平成 25 年 12 月)の西港区と東港区の抜粋を図 2-1 と図 2-2 に示す。また、西港区と東港区の岸壁利用状況を図 2-3 と図 2-4 に示す。

表 2-1　港湾施設の概要

施設等		数値	備考
臨港地区面積		1,966ha	※1
港湾区域		14,300ha	※2
バース数		43(公共)	※2
岸壁延長		7,267.72m	※2
水域施設	航路	9,890m	※2
	泊地	5,774,053 ㎡	※2
外郭施設	防波堤	13,230.43m	※2
	護岸	15,301.17m	※2
	突堤	739.13m	※2
	離岸堤	1928.1m	※2

出典：※1　北海道公報(平成 25 年 3 月 29 日)

※2　苫小牧港港湾台帳(平成 27 年 3 月 31 日)

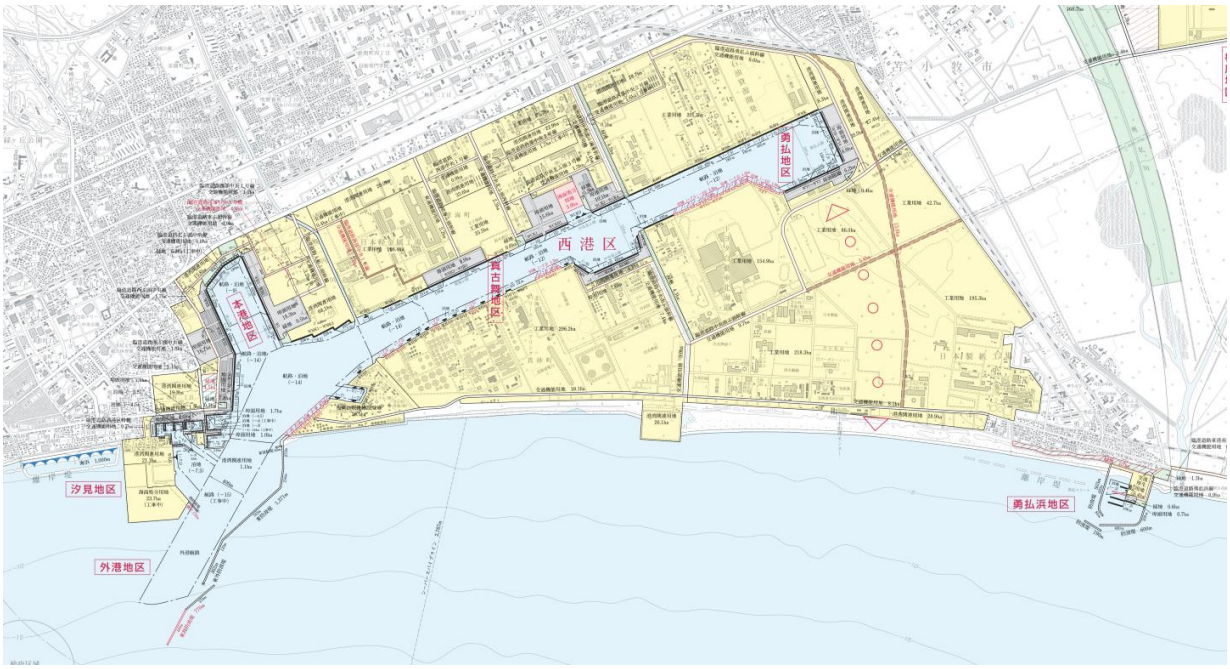

図 2-1　苫小牧港港湾計画図(平成 25 年 12 月)　西港区抜粋

図 2-2　苫小牧港港湾計画図(平成 25 年 12 月)　東港区抜粋

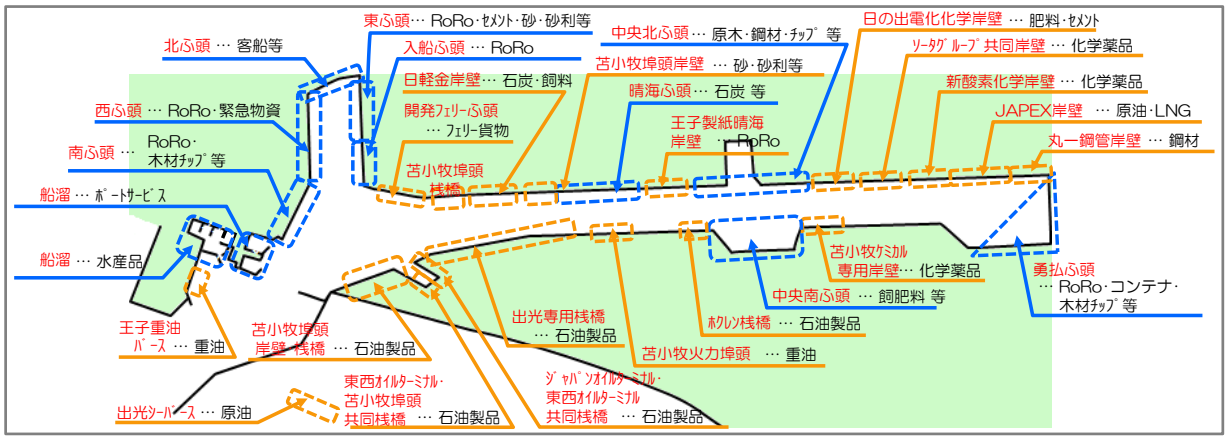

図 2-3　西港区の岸壁利用状況

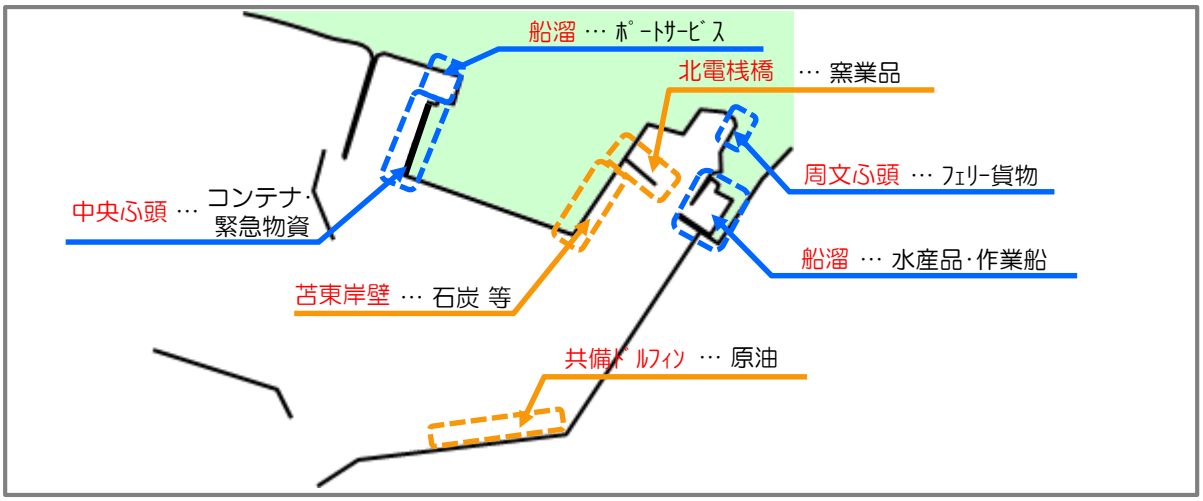

図 2-4 東港区の岸壁利用状況

2.2 取扱貨物量

苫小牧港における取扱貨物量は、近年 1 億トン前後で推移（図 2-5）しており、平成 26 年は 106,299,316 トンであった。海上出入貨物のうち、内国貿易が 83.8%を占め、そのうち移出が 41.4%、移入が 42.4%である。外国貿易は全体の 16.2%であり、輸出が 1.0%、輸入が 15.2%である（図 2-6）。

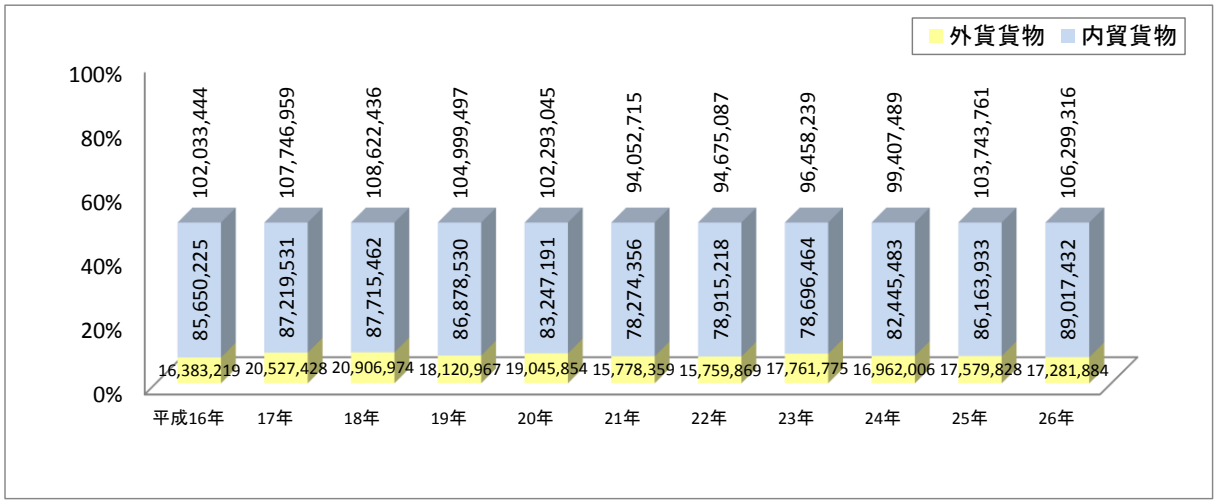

図 2-5　内外貿取扱貨物量年次推移(単位：トン)

出典：苫小牧港統計年報（平成 26 年）

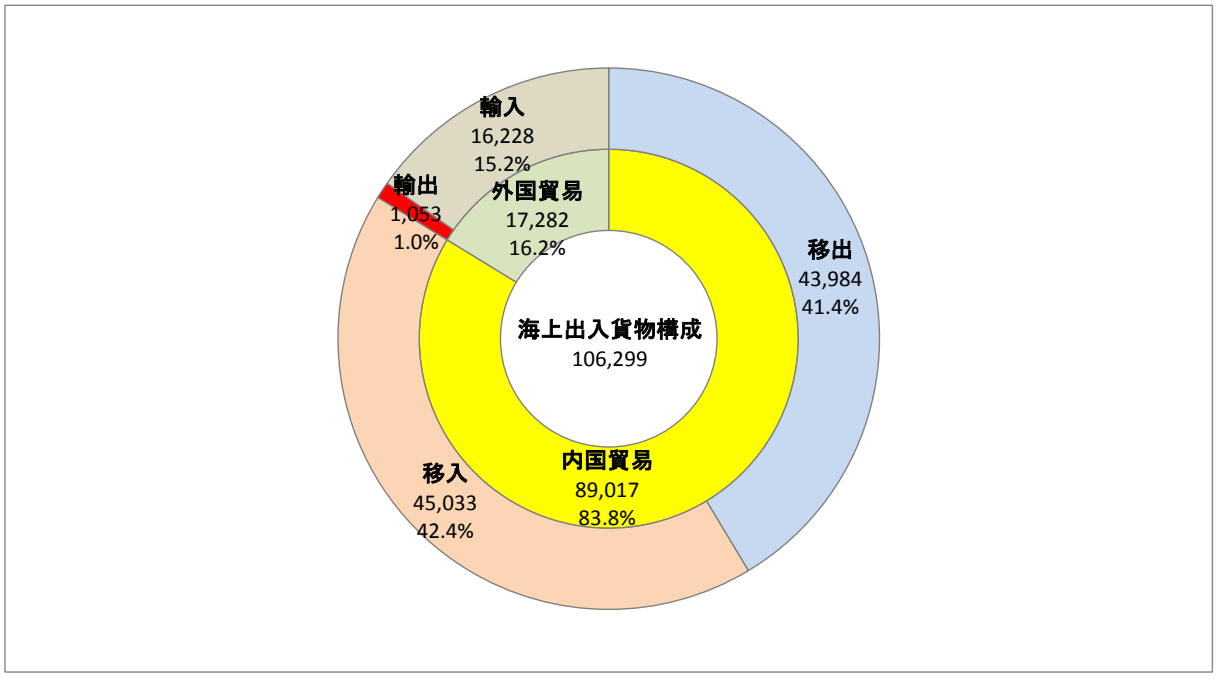

図 2-6　海上出入貨物構成（単位：千トン）

出典：苫小牧港統計年報（平成 26 年）

苫小牧港では、北海道全体の海上出入貨物のうち約 50%、外国貿易額のうち約 60%を扱っており、北海道の中でも非常に重要な港湾であることがわかる（図 2-7・図 2-8）。

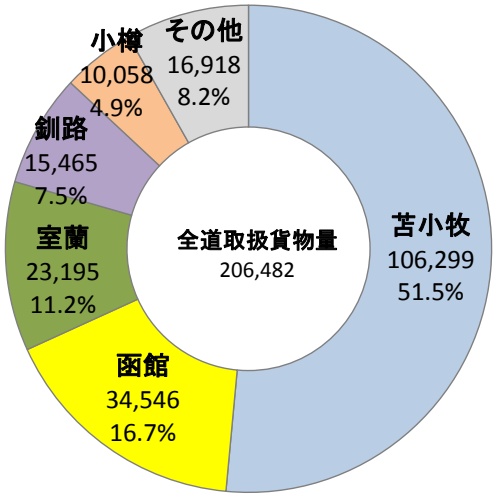

図 2-7　海上出入貨物対全道比較

【単位：千トン】

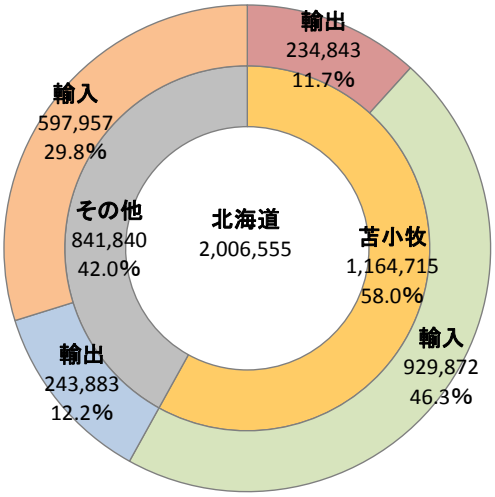

図 2-8　外国貿易額対全道比較

（※函館税関資料による）

【単位：百万円】

出典：苫小牧港統計年報(平成 26 年)

貨物品種別の取扱量については、輸移出が全 45,037 千トンのうち完成自動車が 66.5%と大半を占め、次いで石油製品が 8.6%、紙・パルプが 5.2%である（図 2-9）。

また、輸移入については、全 61,262 千トンのうち完成自動車が 53.3%、次いで原油が 10.6%、石炭が 7.6%である（図 2-１０）。

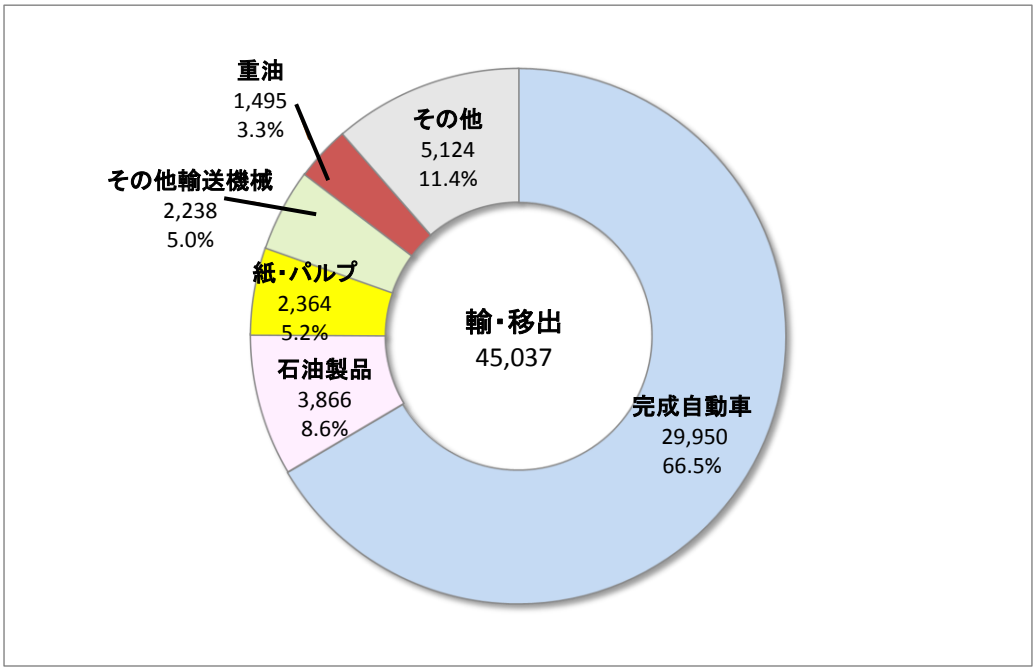

図 2-9　出入貨物品種別比較【輸移出】（単位：千トン）

出典：苫小牧港統計年報（平成 26 年）

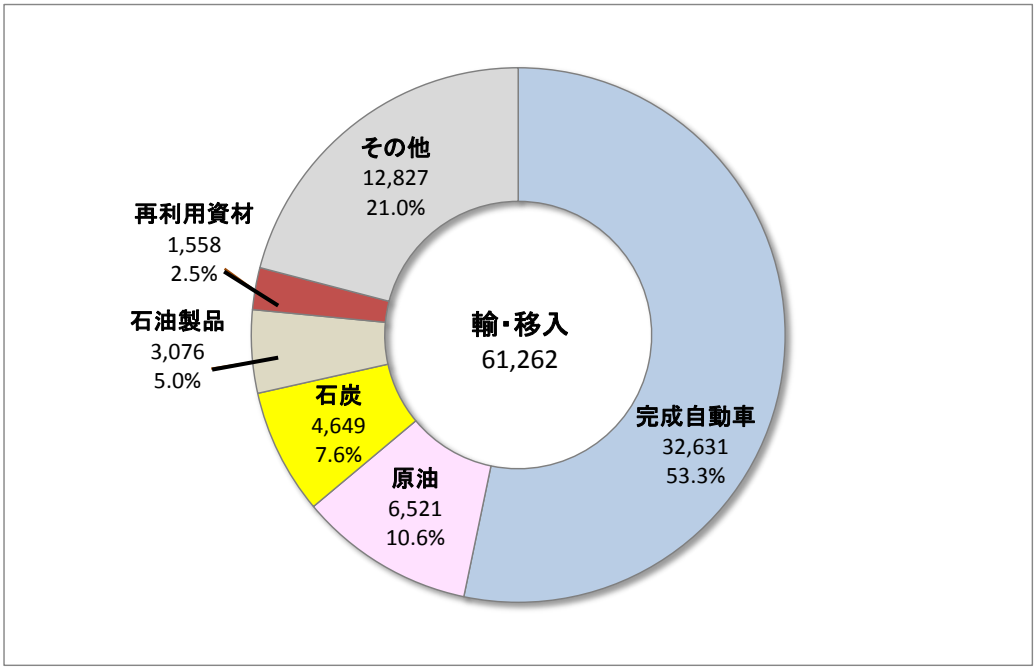

図 2-１０　出入貨物品種別比較【輸移入】（単位：千トン）

出典：苫小牧港統計年報（平成 26 年）

2.3 本 BCP における重要港湾機能

大規模災害が発生した際は、港湾関係者の人員や資機材、連絡手段などが被災することで、平常時のような活動が難しくなるおそれがある。そのため、被災後の復旧に際しては、限られたリソースの中で、港湾機能の中でも重要と考えられる港湾機能を予め抽出しておく必要がある。

本 BCP においては、先述の苫小牧港の現状、背後圏住民への影響、全国的なサプライチェーンへの影響などを踏まえ、表 2-2 に示す港湾機能を重要港湾機能とし、後述の優先復旧順位、機能別の災害時行動計画などを検討する。

表 2-2　重要港湾機能

港　湾　機　能	理　　由
緊急物資輸送	苫小牧市及び周辺地域へ向けた、災害時の物資受け入れ、供給拠点としての機能を果たす。
内貿ユニットロード輸送	フェリー、RORO 船等の定期航路が多数就航し、市民生活に欠かせない日用品や食料、企業の生産活動を支える資機材等を多数運搬している。
外貿ユニットロード輸送 （コンテナ）	道内随一の国際コンテナ定期航路が就航し、市民生活に欠かせない日用品などの輸送、企業の生産活動を支える資機材などを多数運搬している。 また、道産品輸出ゲートウェイとしても、重要な役割を果たしている。
バルク （エネルギー関連）	臨港地区、周辺地域に製油所、発電所、石油備蓄基地などが立地し、原油や石炭、石油製品の取り扱いも多く、道内へのエネルギー供給拠点として機能している。
バルク （飼肥料･生産原料･その他）	飼肥料、木材チップ等を取り扱い、道内企業の生産活動に深く関与している。